

国語に関するコミュニケーション上の課題（審議経過の整理 骨子）(案)

(※ 第 47 回国語課題小委員会（令和 3 年 12 月 21 日）までの審議を反映)

I これからの国語施策の在り方

- ・ 明治以来、国語施策は、不特定多数の人々の間での日本語を用いたコミュニケーションを円滑なものとするために行われてきた。具体的には、一般の社会生活において、現代の国語を書き表す場合の最大公約数的な「目安」や「よりどころ」を示すことが施策の中心となってきた。
- ・ 国語施策は、各種専門分野や個々人の表記に及ぼそうとするものではない。しかし、社会の変化に伴い、例えば、専門分野の言葉が一般の社会生活において、そのまま用いられる場合が多くなっているといった実態が見られる。情報化の進展により、SNSなどを通じて、個々人の表記が社会で広く共有されることも少なくない。
- ・ また、日本語を用いる人々は多様化している。例えば、自らにとっての母語ではない日本語を用いて生活する人は、ますます増えていくと考えられる。
- ・ さらに、長く実施されてきた国語施策のうちに、一般の社会生活で用いられる現代の国語との間に隔たりを生じているものも見受けられる。
- ・ このような国語・日本語をめぐる状況を踏まえ、これまでの考え方に基きつつも、社会の変化に対応するための新たな手当てが必要となると考えられる。
- ・ なお、「目安」「よりどころ」といった考え方の内容が十分に周知されてこなかったため、国語施策は、言葉を制限し、国語・日本語の豊かさと対立するものとして捉えられる場合があった。コミュニケーションの基盤としての国語施策が、文化としての国語・日本語を支えるものとして理解されるよう、十分な説明を加える必要がある。

II 国語に関するコミュニケーション上の課題の所在

以下に挙げるのは、現在、日本語を用いるコミュニケーションに当たっての問題が生じていると考えられる分野と、その具体的な事項である。国語課題小委員会で取り上げられた問題点と検討すべき事柄を整理し、共に列挙したものである。

このうちから、今後、国語分科会で取り組むべき課題を選定していくこととなる。

1 国際化との関係で生じている問題

(1) ローマ字のつづり方に関すること

- ・ 訓令式・ヘボン式の混在
- ・ 小学校における英語科の導入との関係
- ・ それぞれのローマ字表記が必要とされる場面や目的の整理

(2) 外来語の表記に関すること

- ・ 欧米以外からの外来語の増加
 - ・ 原語の音との関係
 - ・ 「よりどころ」となる表記に関する再整理
 - ・ 日本語学習者にとっての障壁
- (3) 外来語の氾濫
- ・ 外来語を用いることが好まれる風潮
 - ・ 行政機関における外来語の多用
 - ・ 外来語形容動詞の増加
- (4) 和製英語の広がり
- ・ 日本語であるにもかかわらず「英語」とされる分かりにくさ
 - ・ 日本語学習、英語学習における障壁
 - ・ 日本語として定着しているものの有用性
- (5) 日本語を母語としない人々への対応
- ・ 国語施策の対象とする場合に関する考え方の検討
 - ・ やさしい日本語の活用
 - ・ 常用漢字表の複層化、基本語彙の選定等の検討
- (6) 英語との関係
- ・ 「世界共通語」としての英語との関係
 - ・ 国際化を英語化として狭めないよう注意する必要

2 情報化との関係で生じている問題

- (1) ICT（情報通信技術）に関する知識の差
- ・ 高齢、経済的理由等による困難
 - ・ 情報アクセス（接続・利用）における格差
- (2) 媒体の変化・媒体の多様化
- ・ 各媒体、アプリケーションごとの用語や言語的特徴への対応
 - ・ 読み手に応じた媒体の選択
- (3) 情報機器やクラウドによる言語処理の影響
- ・ 変換予測・誤入力の自動修正が及ぼす影響
 - ・ 自動翻訳等の技術との関係
- (4) ローマ字のつづり方に関すること
- ・ ローマ字つづりと、ローマ字入力、英語との関係
 - ・ 情報機器におけるローマ字つづりの利便性の改善
- (5) 教育におけるICT利用との関係
- ・ 手書きの減少に伴う文字習得や書写に関する力に関する懸念
 - ・ 利用による教育効果と課題
- (6) 漢字使用の変化
- ・ 情報機器で使う漢字と手で書くときに使える漢字との差

- ・ 書く漢字と読めて変換できる漢字との区分
- (7) 十分な検討を経ていない情報の拡散
- ・ 専門用語や外来語の広がりへの助長
 - ・ 誤字脱字、誤表記等の放置
 - ・ 国語・日本語に関する誤解の拡散

3 言葉の専門化・細分化との関係で生じている課題

- (1) 専門用語の使用の広がり
- ・ 専門家から非専門化への円滑な情報伝達の方法に関する整理
 - ・ 国民にとって特に必要性の高い分野を例にした検討
 - ・ 専門用語に関わるコミュニケーションに関する指針の策定
- (2) 専門用語としての外来語の使用
- ・ 新しい概念を示す外来語の扱い
- (3) 仲間内の用語の広がり
- ・ 家事や趣味等における一般的でない用語の広がりとその扱い

4 国語に関する習熟度に関する課題

- (1) 常用漢字に関する習得度の差
- ・ 常用漢字表と社会生活で用いられる漢字との隔たり
 - ・ 常用漢字表の複層化、基本常用漢字の策定等の検討
 - ・ 書ける漢字／読める漢字の分類
 - ・ 日本語を母語としない人々への配慮
- (2) 基本的な語彙に関する検討
- ・ 単漢字としてでない、語の表記を踏まえた漢字表の検討
 - ・ 基本語彙表の策定等の検討
- (3) 学校教育に役立てることのできる施策の検討
- ・ ローマ字のつづり方、片仮名表記の在り方の整理

5 病気や災害等にかかわる言葉に関する課題

- (1) 緊急時等における新語の導入に関する問題
- ・ 専門用語の転用、外国語・外来語の使用などによる分かりにくさ
 - ・ 識別の難しい表現
 - ・ 差別や偏見につながりかねない表現
 - ・ 迅速に吟味・検討する必要性との両立
- (2) よりふさわしい用語の在り方の検討
- ・ 用語が周知された後の追跡調査や修正
 - ・ 命名の過程に関する基本的な考え方の検討